

科目	高次脳機能作業療法学	担当	藤田 高史	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

脳血管障害や頭部外傷による高次脳機能障害の症状や障害像の知識を修得できる。また、高次脳機能障害の症状に対応した神経心理学的評価や観察による評価手段を修得できる。これらの知識を修得することによって、臨床場面での評価を実践し、症状を解釈できることを目標とする。

【履修注意】

脳と脳血管の解剖学的知識が必要であるため、予習を行い授業に臨むこと。

【評価方法】

筆記試験(中間試験、期末試験)

中間試験40%、期末試験50%、出席と授業中の応答内容10%で評定する。

【試験について】

筆記試験を実施(評価方法参照)

再試験対象者の条件: 本学の試験規定による。

【予習・復習】

シラバスを確認し該当箇所を予習しておくこと。講義内容を復習し、積極的に質問すること。

【教科書】

書籍名: 高次脳機能障害作業療法学 改訂第2版 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 編集: 鈴木孝治 出版社: メジカルビュー
別途、プリントを配布する。

【参考書】

書籍名: 神経心理学的入門 著者: 山鳥重 出版社: 医学書院

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	高次脳機能障害概論	高次脳機能とは(診察・検査の流れ, 作業療法と高次脳機能障害)
2	高次脳機能評価①	高次脳機能評価の概要
3	高次脳機能評価②	高次脳機能障害の観察評価、神経心理学的検査
4	高次脳機能障害・注意障害	意識障害, 注意障害の評価と介入
5	高次脳機能障害・半側空間無視	半側空間無視の評価と介入
6	高次脳機能障害・感情障害	感情障害の評価と介入
7	高次脳機能障害・失認系の障害	視覚失認, 構成障害, 着衣障害の評価と介入
8	高次脳機能障害・まとめ	中間試験
9	高次脳機能障害・言語障害	失語症の評価と介入
10	高次脳機能障害・記憶障害	記憶障害の評価と介入
11	高次脳機能障害・思考障害	思考障害, 問題解決訓練
12	高次脳機能障害・行為, 行動の障害	行為, 行動の障害の評価と介入
13	高次脳機能障害・遂行機能障害	遂行機能障害の評価と介入
14	高次脳機能障害・社会的行動障害	社会的行動障害の評価と介入
15	高次脳機能障害・今後の展望	高次脳機能障害と作業療法士の今後の関わり方, まとめ
16	期末試験	15回の復習・確認・総まとめ